

1. 目標

包括目標(Goal)

1. 一般臨床医として日常診療で遭遇する女性特有の疾患に関する初期対応ができる。
2. 救急医療において産婦人科領域の疾患に対して、産婦人科専門医療に移管するための基礎知識を習得し、初期対応ができる。
3. 生殖可能年齢女性に対する検査・薬物療法における注意時点について知識を習得し、実践できる。
4. 妊娠・分娩・産褥による女性の生理学的な変化を理解し、特有の病態に対する基礎知識を習得し、初期対応ができる。
5. 妊娠週数に応じた胎児の特徴について基礎的知識を習得し、健全性の評価ができる。

個別目標 (Objectives)

- 1-1. 婦人科一般診察を行い、その結果を解釈できる。婦人科検診の意義を理解する。
- 1-2. 骨盤内腫瘍に対する画像検査を立案し実施できる。
- 1-3. 月経周期や量の異常・不正性器出血に対する鑑別疾患が想起できる。
- 2-1. 女性の下腹痛に対する鑑別疾患を想起し、検査計画が立案できる。
- 2-2. 腹腔内出血に対する鑑別疾患を想起し、検査計画を立案し初期対応ができる。必要に応じて産婦人科医にコンサルトできる。
- 3-1. 問診から妊娠の可能性を推測できる。
- 3-2. 妊娠可能女性または妊婦・褥婦に対して画像検査を行う際に必要性和リスクについて判断し説明できる。
- 3-3. 妊娠可能女性または妊婦・褥婦に対して薬物療法を行う際に必要性和リスクについて判断し説明できる。
- 4-1. 常位胎盤早期剥離や前置胎盤の出血、臍帯脱出といった、緊急性を要する疾患を疑うことができ、適切に産婦人科医にコンサルトできる。
- 4-2. 分娩の開始や分娩の切迫した状況を察知し産婦人科医にコンサルトできる。
- 4-3. 不可避な分娩に対する基本的な処置ができる。
- 4-4. 妊婦の心肺停止に対する心肺蘇生が適切に実施できる。
- 5-1. 胎児超音波による胎児健全性の評価ができる。
- 5-2. 胎児心拍数陣痛図から児の健全性が評価できる。

2. 方略

1. 診察所見や画像所見、血液検査所見をもとにカンファレンスや回診で症例を提示する。
2. 指導医とともに病棟回診・処置を行う。

(産婦人科) 臨床研修プログラム

3. 指導医とともに救急患者に対する診察を行い検査・治療計画を立案する。
4. 指導医とともに手術に参加する。
5. 指導医とともに分娩管理を行う。
6. 妊婦の経腹超音波で胎児の健常性と体格について評価する。
7. 胎児心拍数子宮陣痛図から胎児の健常性・子宮収縮の評価ができる。
8. 指導医とともに出生後の新生児に対する初期処置・蘇生・系統だった診察を行う。
9. シミュレーターを用いて妊婦蘇生をトレーニングする。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
集合時間	8時	8時	8時	8時	8時
場所	病棟	医局	病棟	医局	病棟
午前	手術 病棟業務	カンファレンス 回診（産科）	手術 病棟業務	カンファレンス 病棟業務	手術 病棟業務
午後	手術 病棟業務	病棟業務	手術 病棟業務	回診（婦人科） 病棟業務	手術 病棟業務

病棟： B 棟 6 階（内線：5891）

医局： 基礎棟 3 階（内線：5423）

3. 評価

1. EPOC 2 で評価（形成的評価）
2. EPOC 2 で自己評価と指導医評価を行う。

4. 指導医（指導医養成講習会を受講した医師）

小林 裕明, 神尾 真樹, 戸上 真一, 築詰 伸太郎, 水野 美香, 福田 美香, 太崎 友紀子, 濱田 朋紀, 折田 有史